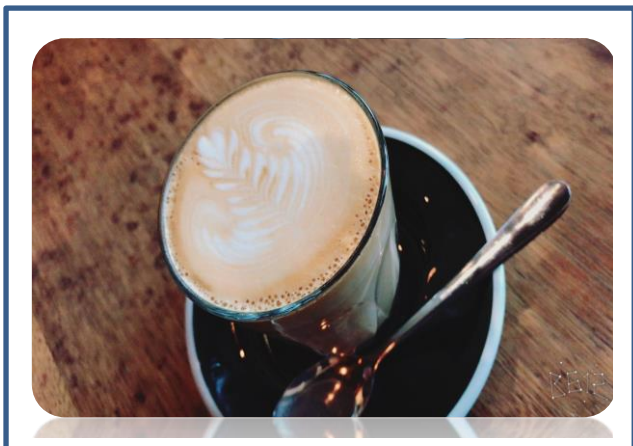


OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) Y.M
所属 (School) 生命環境科学域 獣医学類
学年 (Grade) 1年

留学先 (Name of overseas institution)
モナシュ大学 (オーストラリア・メルボルン)
留学期間 (study abroad period)
2017年8月22日~2017年9月24日

記入日 (Date) 2017年10月9日

留学レポート Study Abroad Report

長い1か月になるのではないかと不安になりながらの出発でした。ちょうどその頃台風が接近しており、関空からの便が大幅に遅れ、そのこともまた不安な気持ちを助長していたように思います。

往路では、機体の揺れのせいか、酔ってかなり体力を消耗しましたが、メルボルン空港に到着するころには何とか回復していました。しかしここでまた新たな不安が生じていました。ホストファミリーとの対面です。ホストファミリーが迎えに来てくれるのを待ちながら、どんなふうに挨拶しよう、うまく意思疎通できなかつたらどうしよう…、とメルボルン滞在中で最も緊張していました。

しかし、それは杞憂に終わりました。迎えに来てくれたホストファーザーが優しく話しかけてくれたので、緊張を解くことができました。色々な不安を抱えていましたが、メルボルンに着いて、その文化の中で過ごしはじめると、すぐにわくわくすることばかりになりました。

メルボルンに着いた次の週の月曜日から学校が始まりました。授業は午前8時30分から12時45分まででした。シティではなく、キャンパスから少し離れた郊外にホームステイさせていただいたので、毎朝7時に家を出ていました。(家庭によっても違うとは思いますが、オーストラリアの人達は就寝時刻が早いと思います。私も、遅くても10時30分には寝るという生活リズムになっていました。)授業では、文法事項の説明など今まで日本で受けてきた英語の授業と共通する点ももちろんあったのですが、異なっている点も多かったです。例えば、スマートフォンなどの機器を使って、クラスメートとチームを組んでゲーム感覚で取り組むことができるタスクなどがありました。また、グループで決められたテーマについて調べてレポートを作成したり、あるいは、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行ったりしました。モナシュ大学に通っている間、ずっと英語によるコミュニケーションを楽しみながら受講することができていました。授業が終わってからは、ファミリーが持たせてくれるランチを食べることが多かったです。キャンパス内に自習をするスペースが数多くあったので、先に宿題をある程度終わらせてから、行ってみたい所へ出かけていました。メルボルンはカフェやアートの街として知られているだけあって、街並みが本当に綺麗でした。それらを眺めながら、のんびりとカフェを巡るのも楽しかったです。同じラテを注文しても、お店によってカップが違うので雰囲気が変わったり、ラテアートの模様がさまざまだったり、比べるのが面白かったです。店内の様子もお店によって異なり、その様子を写真に収めるのも楽しかったです。フランクストンや、ブライトン、セントギルダなど、いくつかのビーチにも行きました。メルボルンに着いたばかりのころは、風が冷たく気温もかなり低かったため、ビーチもいかにも冬の海、といった雰囲気でしたが、帰国する直前のころには気温も高くなって春めいており、ビーチに水着姿の人が見られました。土日には、モナシュ大学と提携しているツアー会社の2種類のツアーにも参加しました。1つはグレートオーシャンロードへのもので、その名の通り、本当に綺麗な海を眺めることができました。もう1つは、フィリップ島でフェアリーペンギンが巣へ帰るために海から歩いている様子を見るというものでした。世界で最も小さな種のペンギンなので、体長が30センチメートルほどしかなく、よちよち歩いている様子は、思わず連れて帰りたくなくらい可愛らしかったです。



観光もさることながら、私は獣医学生の一員として、メルボルン大学の獣医学部の研究室を見学させていただきました。メルボルン大学の獣医学部には、シティの近くのキャンパスと、ウェリビーというシティから電車で30分ほどのところにもキャンパスがあります。今回私が見学させていただいたのは、シティのほうのキャンパスでした。1階の受付に置いてある“VISITOR”と書かれた名札を付けて、建物内を見学しました。研究室が並んでいるフロアでは、廊下に、各研究室が行っている研究内容および実験内容が示された掲示がありました。もちろん全て英語で、かつ専門的な内容だったので、完全に理解することはできませんでしたが、一部は何とか読むことができました。現在私は1回生なので、獣医学生としてはまだ何も専門的なことは勉強していませんが、聞き覚えのある生物の用語を頼りに読み進め、大まかに内容を捉えることができました。世界規模で、獣医学における様々な研究がなされている、ということを実感することができました。これから先、獣医学生として学びを深めていくうえで、大きなモチベーションアップに繋がると思います。また、そのほかのフロアの1つには、解剖された標本がありました。スライスしたような形で断面的に見ることができるようになっていました。興味深いと感じたのは、その動物が羊であったことです。日本では、あまり羊を解剖の対象にするとは聞いたことがなかったので、オーストラリアならではののかなと思いました。

ホストファミリーと過ごした時間も私にとって宝物です。ホストマザーは、かつて日本語を習っていたことがあるので、時々日本語で話しかけてくれました。その流れで、私が日本語を教えることもありました。教えながら、日本語を英語で教えるということの難しさに気が付きました。助詞の説明など、何と云えばよいか分からず困ることもしばしばありました。ファーザーも、日曜日の朝に美味しいコーヒーを淹れてくれたり、日本へ家族旅行に行ったときの写真を見せてくれたりと、気さくに話しかけてくれました。マザーとファーザーに加えて、9歳の女の子と、6歳の男の子もいて、宿題がないときにはその子たちと遊ぶことが多かったです。テレビゲームやカードゲームなど、いろいろなもので遊びました。やり方が分からないものも子供たちがルールを教えてくれたので一緒に楽しむことができました。少しずつ打ち解けていくにつれて、弟くんがノックなしで私の部屋に突撃してくるようになっていたり、お姉ちゃんが自分のバスケットボールの試合についていろいろ話してくれるようになっていたりしました。最終日に、集合場所までファーザーと子供たちが一緒に来てくれたのですが、子供たちが何度も何度も私の方を振り返って、姿が小さくなっててもまだ手を振ってくれながら帰っていった様子が忘れられません。

今回、このオーストラリア短期個人留学プログラムに参加したことで、様々なことを体験することが出来ました。5週間にわたる海外滞在やホームステイなど、初めてのことばかりで、プログラムへの参加をはじめは迷っていましたが、参加して本当に良かったです。英語やアカデミックスキルを向上させることはもちろん、また別の点でも目標をもって現地に向かったことで、有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。また、英語のもつ「力」を感じる事が出来ました。モナシュ大学のクラスメートの中には、日本人学生のほかに、中国から来た学生もいたのですが、お互い中国語と日本語が全く分からないので、英語を使ってのみコミュニケーションをとることが出来るという状態でした。はじめこそ、質問されてもYESやNOでしか答えられず、また、相手も同じ様子でしたが、同じ時間を共有するにつれて、打ち解け、英語というツールでどんどん会話を楽しめるようになっていきました。冗談を言い合ったり、意見を伝えあったり…。母国語が違ってても、英語と、相手に伝えようとする気持ちがあれば、本当に、世界中の人たちとつながることができるのだと実感しました。英語は、自分にとって新たな世界への扉を開いてくれる鍵のようなものだと思います。

“You can always come back!” ホストマザーとファーザーはこう言ってくれました。自分の中に、もう1つエンジンが積みこまれたように、パワーをもらった気がしました。

これからも、学生生活の中で必要不可欠になるだろう英語の研鑽を積んでいく上で、今回メルボルンで感じたことを忘れずにいたいと思います。

ありがとうございました。

